

(財) 日本木材総合情報センター

6 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、入荷が平年並みに戻り、原木不足も解消された模様。スギは、柱材の需給バランスが取れなく不安定な動き、中目材は全般的に引き合い弱い。ヒノキは入荷が増加しているものの、依然として引き合い強く、柱材、中目材ともに好調。価格は品薄感が解消され続伸していたスギ柱材が、大手工場数社の手当ての影響から 500 円から 1,000 円の幅で上げ下げを繰り返し、中目材は弱保合で推移。一方、ヒノキは、荷動きが好調で柱材、中目材ともに保合から強保合で推移。群馬は、国有林が端境期でカラマツの入荷は少ないが、工場はほぼフル操業。製品の販売状況は、そこそこに旺盛。価格は一部品目では原木アップに連動して若干上がっているが大勢は現状維持で低迷。県内の住宅着工が対前年比でプラスに転じたが、中小は依然厳しい状態が継続。

2. 米材

4 月の米国新設住宅着工数は、前月比 5.8%増の 67.2 万戸となった。米国の 6 月積の丸太は、前月同様中国の買いが旺盛で、全てのグレードで上昇。但し、価格に天井感が出始め小幅な上昇となった。また、カナダの丸太もオールドグロス以外は小幅の上昇。5 月の港頭在庫は約 4,570 万スクリブナー(約 20 万 m³)と前月比約 27%減少。また、ウェアハウザー社の 6 月積み米マツ IS ソートは、10 ドル値上げ。米材丸太は入・出荷、在庫とも横這いで推移。大型港湾製材工場の 5 月の荷動きは、工場によってバラツキはあるが概ね前月並、また、内陸部製材工場の荷動きは、5 月の連休明け以降、一層悪くなっている。

一方、製材品は、入荷が増加で出荷は横這い。動きが低調で在庫は増加。産地の状況は原木、製材とも生産数量は低水準で、中国向けの好調もあり価格は急上昇。日本向け製品は、日本の引き合いが弱いことと、船腹不足で増産の動きはない。産地価格はコンテナ運賃急上昇で値上げしてきたが、引き合いは少ないので末端価格は横這いが続くと予測。

3. 南洋材

サバ州は、新規伐採規制の強化が少なからず出材に影響を与えている。また、出材不足のため船腹埋まらず、サラワクからサバに配船されている影響で、セラヤ類の原木相場が一段と強含み。製品相場も連動して全品目強含み。サラワク州は、先月下旬から伐採地で降雨が多く出材に支障。伐採地が奥地化してきており、良材も不足してきているので、相場は一段と上昇。堅木は相変わらずインド、中国からの引き合いが旺盛で強含み。PNG・ソロモンの出材状況は相変わらず悪く、価格や材の内容等で折り合わず、中国向けはかなり落ちてい

る。丸太の入・出荷、在庫ともに横這いで推移。製材品の入荷も横這い。販売は合板用原木、製材用原木とも低迷。製材品は、F O Bのアップを転嫁するのに苦慮しているが、集成材、2等平割類の動きは良い。

4. 北洋材

ワニノの配船はこれまで好調だった中国向けが一段落。日本向けは引き続き低調のまま、1月を底に毎月若干ながら増加するも、合板向けカラマツの高値敬遠から5月は減少に反転する見込み。1~4月の中国の原木総輸入量は、対前年同期比でプラス24%と好調な買付を行ったが、ロシア材に関しては同マイナス6%。しかし、比較的大手のロシア極東木材輸出協会の数値では、対中国向けはプラスとなっており、中小伐採業者の資金不足による生産減少がうかがえる。丸太価格は入荷量が少なく上昇、アカマツ原板も強気配。製品価格も上昇。富山港・富山新港の5月丸太入荷は、23,071 m³(アカマツ 3,534 m³、エゾマツ 14,546 m³、カラマツ 4,991 m³)と先月比84%増。製品は15,092 m³で先月比倍増した。丸太はエゾマツ、アカマツ、アカマツ原板とも在庫減少し荷動き良い。製材品は東京港、川崎港の現地挽き完成品との競合で国内挽きの荷動きは悪い。在庫は1.5ヶ月である。国内製材工場は生産調整で稼働状況は悪く、アカマツの丸太挽きは不採算。

5. 合板

合板用国産材丸太は、地域によって異なってきており、特に西日本は強基調。南洋材はインド、中国等丸太消費国の積極的な買付の影響で続伸。北洋材は引き続き強含みの状況。4月の国内の合板生産量は約22.6万m³で、うち針葉樹合板は19.4万m³(同128%)となり、4カ月連続で増加している。出荷量は19.9万m³(同113%)と好調を維持しているため、在庫量は15.9万m³まで減少し、非常に低水準な状況。国産南洋材合板は、諸資材上昇を背景にメーカー側の段階的値上げが続いている。針葉樹合板は、引き続きメーカー側の強硬な姿勢が徹底しており、着実に値戻しは浸透している。先高観から荷動きは好調で、メーカー在庫は低水準となっている。一方、輸入合板は、もたついていた相場が一変し、川上では上昇し始めた。入船の遅延もありタイト感強く、今後も不足品目を中心に価格転嫁が急速に進む見通し。先行き針葉樹合板は、流通在庫が潤沢なため、目先は末端での心配はほとんどないが、輸入合板は先々の入荷量が不透明なことから需要の回復に伴い逼迫への懸念が高まってきており、今後も上向きの相場展開は続く見通し。

6. 構造用集成材

3月4日から2週間続いたフィンランドの港湾ストの影響で、4月末から5月20日までの入港が極端に少なかった。それ以降は安定的に入ると思われたが、コンテナ不足による入港遅れが発生し、依然不安定となっている。国産集成材の受注は、国産材梁桁、RW 梁桁が依然として多く、納期がかかっている。国産カラマツの生産は原料供給が増えず欠品が続く。全般的に荷動きは良く、販売は良好で、在庫は少ない。集成材価格は、第2クオーターの契約がほぼ終了した(260~265ユーロ/m³)。第3クオーターに関してはユーロ安の背景の中、

その分原料価格が押し上げられ更なる価格アップとなる気配。一方、輸入集成材は、柱に関しては、港湾ストの影響で遅れて入港している製品があり、少量だが安値品も入ってきている。次回契約分については前記同様の理由で価格は強い。関東を中心に分譲住宅の売行きが好調。アパート物件も動き良く、2×4 から在来工法へと動いており、国産材の話題は後を絶たない。首都圏以外では依然動き悪く苦戦している。

7. 市売問屋

構造材は、国産材が連休明け小動きがあり期待したが尻すぼみ状態。外材はツガ小角、アカマツタルキ、スプルス良材が品薄から荷動きあり。造作材は、国産材がスギ、ヒノキとも低調。外材はスプルス、ピーラの良材が小動き。買い方の手持ち仕事量が少なく記念市でも客足は鈍く、来場者も当用買い、様子見が多く販拡に至らない。先般成立した木材利用促進法は国産材の需要増加が見込めそうで、今後期待したい。

8. 小売

国産材の構造材価格はスギKD柱、ヒノキ柱・土台変わらず。米ツガKD平割、正角とも入荷少ないが必要なアイテムは間にあってきた。欧州材間柱変わらず。ロシアアカマツは不足気味。集成材はWW、RW梁、柱ともに強く、納期は発注から30～40日必要。合板は針葉樹全品目で高い。ラワン合板は横這い。床板は変わらず。プレカット工場の受注・加工は順調に推移。工務店は6月に入り細かい仕事が出てきているが、大工仕事が少なく、売り上げは今一步である。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

【情報提供：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク】